

在宅医療セミナー

日時：11月22日(日) 11:10~12:10

会場：第8会場(かごしま県民交流センター 県民ホール)



キュア志向の病院医療からケア・キュア志向 の在宅医療へ —地域包括ケアシステムの構築を目指して—

医療法人ナカノ会 ナカノ在宅医療クリニック

なかの かずし
中野 一司

【略歴】

- 1956年 3月生まれ、59歳
- 1981年 3月：東京理科大学薬学部卒業（薬剤師免許取得）
- 1987年 3月：鹿児島大学医学部卒業（医師免許取得）
- 1987年 4月：鹿児島大学病院第3内科入局
- 1988年 1月：1988年3月：鹿児島大学医学部附属病院救急部で研修
- 1995年 3月：鹿児島大学医学部大学院内科系卒業。医学博士。研究テーマ：血液凝固学の分子生物学。
- 1995年 4月：鹿児島大学附属病院検査部
検査部内コンピュータネットワークの構築に従事
- 1999年 9月：ナカノ在宅医療クリニック開設（院長）
- 2003年 10月：医療法人ナカノ会理事長
- 2004年 11月：ナカノ訪問看護ステーション、ナカノ居宅介護支援事業所を設立
- 2008年 3月：鹿児島大学医学部臨床教授
- 2009年 2月：第11回日本在宅医学会大会長
- 2009年 6月：社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 ICT局長
- 2012年 5月：平成24年度在宅医療連携拠点事業を実施
- 2014年 3月 1日：ケアタウン・ナカノを設立
- 2014年 3月22日：全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会実行委員長

（著書）

在宅医療が日本を変える—キュアからケアへのパラダイムチェンジ
(中野一司、ドメス出版、2012年12月)

（役職）

鹿児島大学医学部 臨床教授
全国在宅療養支援診療所連絡会 ICT局長
第11回日本在宅医学会大会長（2009年2月28日、3月1日開催）

キュア志向の病院医療からケア・キュア志向の在宅医療へ —地域包括ケアシステムの構築を目指して—

医療法人ナカノ会 ナカノ在宅医療クリニック

なかの かずし
中野 一司

本講演では、“問題の構造”におけるキュア概念とケア概念を用いて、従来のキュア志向の病院医療に対し、キュア志向の病院医療とケア志向の介護をつなぐケア・キュア志向の在宅医療という新しい医療概念を提示する。

我々の医学部時代に学んだ医療（薬学）は、全て、医療機関内（病院や外来）で行われる医療で、病気を検査し、治療することが目的である。そして問題解決の意識の多くはキュアに志向し、これがキュア志向の病医医療である。

これに対し、在宅医療は医療機関外（地域＝在宅や施設）で行われる医療で、検査や治療（キュア）より生活（ケア）が優先される医療である。これが、本講演で提示するキュア志向の病院医療とケア志向の介護をつなぐケア・キュア志向の“在宅医療”という新たな医療概念である。

病気や障害があっても、地域（在宅や施設）の生活の場で、最期まで生活しても良いことを医療的に保証する医療がケア・キュア志向の在宅医療で、生活の場での医療を保証した結果が、地域（在宅や施設）での看取りに結びつく。だから、看取りは、（国の財源確保の）目的（キュア）ではなく、患者の望む医療を実践した結果（ケア）が看取りに結びつくのである。そして、この事が、結果的に医療費を安くする。看取りは（財源確保の）目的（キュア）ではなく、（患者の望む医療を実践した）結果（ケア）であることは、非常に重要な視点であることを強調したい。

キュア志向の病院医療が病気そのものを対象にするのに対し、ケア・キュア志向の在宅医療は病気を抱えた人（の生活）を対象にする。

現在進行中の医療崩壊は、キュア志向の病院医療の崩壊であって、見方を変えると医療再生（再編）のプロセスとも捕らえることができる。医療再生の行き着く先は、1) 急性期病院（急性期医療、キュア志向の医療）の集約化・機能強化、2) 在宅医療（慢性期医療、ケア・キュア志向の医療）＋ケア志向の介護（生活支援）の普及・連携、と考える。そしてこれら 1) 集約化・機能強化された急性期医療（キュア志向の病院医療）と、2) 普及していく慢性期医療（ケア・キュア志向の在宅医療＋ケア志向の介護）は、相補的に連携しながら地域全体の医療・介護を変革していき、その行き着く先が“地域包括ケアシステム”と考える。

本講演では、ケア・キュア志向の在宅医療推進の意味と、地域包括ケアシステムの構築の関係につき解説し、地域包括ケアシステムにおける薬剤師の役割について述べる。